

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0172900805), 法人名 (北海道医療株式会社), 事業所名 (グループホームハッピーヴィラしんまち), 所在地 (北海道旭川市6条西1丁目1番2号), 自己評価作成日 (平成29年6月29日), 評価結果市町村受理日 (平成29年12月29日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎年、日常生活に役立つ講習会(成年後見制度、感染症対策等)や季節に合わせた催し会(お茶会、仮装盆踊り、ハロウィンパーティー等)を開催し、地域の方々と触れ合える場を作り、地域と共存し助け合っていく事を心がけております。

入居者様、ご家族様におかれましては、要望を出来る限り叶えられる様、又、以前住んでいた地域住民の方々との交流を図り、馴染みの関係が継続されるよう配慮し、随時ご本人様、ご家族様と話し合いながら状況に適し、其々の持つ力を活かし、楽しさと充実感を一時でも感じていただけるようなサービス支援を考慮しながら取り組んでおります。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_02_2_kani=true&JigvoSyvoCd=0172900805-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西1丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成29年7月14日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームハッピーヴィラしんまちは、旭川市中心部の住宅街に平成13年に開設され、今年度で16年目を迎えるホームである。理念には「個性を尊重し、自尊心を傷つけない対応をします。明るく楽しい生活を支援して精神の安定を図ります」を掲げ、達成度について定期的な話し合いを行っている。また、職員は利用者が安心して暮らせるよう、内外の研修に積極的に参加し、技術の向上に努めている。地域での高齢者支援の一環として、成年後見制度や感染症対策、急変時対応等の「知りたいこと」を題材にした講習会を開催しており、利用者家族や近隣住民の声に応えるべく取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個人の尊重、充実した生活を基にその都度、何処迄を尊重して対応したら良いのか？を考慮しながら実践している。	職員は入職時に法人理念について学び、日常的に共有している。また、申し送りやスタッフ会議の場で、理念に沿った具体的な方針や実践度について話し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	行事等の催しから地域に呼びかけ親交が深められるよう取り組んでいる。	地域行事に積極的に参加し、共に支えあう関係の構築を目指している。事業所の活動や行事を周知し、利用者が地域と交流する場を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	交流の場から、認知症の方への対応や行方不明者が出た時等の対応時に備えての保護や認知症の知識を伝達している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告から入居状況や新しい入居者様が入所された時の紹介等、他、避難訓練結果報告や災害時の対応、行方不明者が出た時の対応等について、ご意見を伺い生かしながら実践している。	家族や民生委員、地域包括支援センター等が参加し、定期的開催している。会議で提案された内容は職員にも伝え、改善につなげている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からない事等、伺い教えていただきながら連携を図れるよう取り組んでいる。	事業所についての周知に努め、市がすすめる地域高齢者支援の活動にも、積極的に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	何処までを拘束と考えるのか？を常に疑問視し、市にも伺いながら安全性を重視考慮した取り組みを実践している。	身体拘束等に関する外部研修に積極的に参加し、伝達研修を行うことで、職員全員で共有している。利用者の外出の希望があった場合には、職員が同行している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待ととらえられるのはどのような対応時にあたるのか？を常に意識考慮しながら必然的に虐待行為にならぬよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会の方に講習依頼をし、成年後見制度適用時に備えられるよう学習をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様、ご家族様にご説明をさせていただいた上での疑問点を伺い、話し合いながらご理解、納得されるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	随時、話し合いの場を設け、要望等を伺えるよう又、アンケート調査からも、ご意見を表せる場を作っている。	来訪時に意見・要望を聞き、運営に活用している。また、事業所独自の家族アンケートを実施し、率直な気持ちをくみ取るようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に現状報告の場があり、意見、提案を述べる事が出来、又教授していただきながらサービス支援に反映させている。	毎月のユニット会議や系列施設との合同会議、定期的な面談の場で職員の意見を聴取する機会がある。その他、管理者が随時、職員の個別相談に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な現状報告の場から業務遂行状況や職員の功績、稼働について等、伝え状況把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	上記に同じく、状況把握から他の部署等の連携をはかれる場を設け、系列の勉強会を開催し、知識、情報交換、連携をはかれるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の方を招いて系列グループの勉強会開催を行ったりし、知識向上からサービスに反映させられる様、連携が図れるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様に今迄の生活状況を伺い、出来る限りの要望が叶えられるよう場面、状況等に配慮し、信頼感、安心感が得られ、一日も早く慣れて頂ける様、取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族や、サービス関係者に今迄の様子を伺い、ご本人様にとって良い生活支援は何か？又ご家族様がご本人様にどのように生活支援を行いたいのか？を伺いながら互いに納得の行く関係作りを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今迄の状況を伺い、必要性のある支援や趣味を生かせることを含めたサービス支援を行っている。(例)お茶会や宅配図書等のサービス		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊厳、尊重を意識し、又、押れ合いや、頑なな関係にならぬよう意識しながらの対応、関係性を心がけている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	時折、ご本人様とご家族様へ連絡をし、会話をもつていただき、又、入浴時にご家族が面会に来られた時にはご本人様の背中を洗い流してあげれる場に配慮し、家族の絆が深められるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容師さんに来て頂いたり、以前住んでいたアパートの大家さん宅へ会いに行くことや月に1回、同期会への送迎を行い、馴染みの関係性を築いて行ける様、配慮している。	日々の関わりの中や家族からの情報を基にしながら、利用者の生活習慣や馴染みの場所等を把握し、一人ひとりの想いに添える様、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い人同士や1人1人の交わり合いを考慮しながら関係性に配慮し、孤立や陰湿な雰囲気にならぬ様、テーブル席の配置など取り決めを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	催し等の声掛けをしたり、相談を受け付けたりしながら、縁の継続を図っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各自の話や習慣、意向を伺いながら、望む生活が出来る様又、意思表示が困難な方はご家族様に伺ったり、仕草、動作から把握し、望んでいそうな場を作り安堵感を図れるよう努めている。	日常の利用者との会話等から、本人の希望や思いを把握するよう努めている。困難な場合は、生活暦や家族からの情報等により、本人本位の生活となるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出身地や家族構成、生活歴を伺い回想法を生かし取り入れながらサービス支援に努めている。(例)毎朝起床時にコーヒーを飲用する習慣や出身校へ行ったり等。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各自の生活ペースや心身から現状に現れる様、出来る事について把握している(例)現状に現れる様子→他者からの言動が不快なものであれば数日なかなか起床されない等。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様に伺い、ご家族様には現状の様子から今後に向けてのサービス支援について話し合いながら、ご本人様に適しそうな介護計画を作成している。	サービス提供者会議を行い、利用者の意向を取り入れた介護計画を作成している。また、3ヶ月に一度モニタリングを行い、見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各職員の視点をもちより、工夫点を参考に実践し結果の報告をし、更に工夫の仕方を考慮したりしながら話し合い記録や評価を行いながら定期的に見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の現状に適した対応策について話し合い時には市にも相談を行いながら安全・柔軟なサービス支援を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各入居者様が適する地域資源(宅配図書や老人会等)を利用し、ご本人様の趣向が生かされる取り組みを行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご希望の医療機関や担当医に診察して頂く事により、ご本人様、ご家族様の以前からの信頼関係継続がなされるよう配慮している。	入居前からのかかりつけ医の継続受診が可能となっている。必要に応じて添書を持参したり、往診医、訪問看護師、職員にも受診結果の引継ぎを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の様子を伝え、診ていただき相談、指示をいただきながら対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に経過と普段の生活状況や基本状況退院後の要望を伝えて情報交換をしながらスタートからゴール迄、互いに取り組んでいる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時より次の生活の拠点について、ご説明をし、系列施設やご要望の拠点先への情報提供の配慮を行っている。(例)階段昇降が困難になってきた場合等についての生活拠点へのご説明	入居時に事業所の方針を伝え、家族の希望を確認している。近隣の母体病院への入院が可能となっている。職員も重度化した際のケアを学び、関係機関と協力しながら支援する体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応についての勉強会やマニュアルの見直しを行いながら即座の実践に生かしている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議の中で地域の方や消防署の方にも参加していただき避難訓練を行い、見ていただきながらご意見、ご指導を頂き、今後の対応策考慮と協力体制を構築している。	避難訓練は消防の立会いのもと、年2回実施している。毎回具体的な設定を行い、課題となったことを洗い出し、職員の意識付け、改善に繋げている。	火災以外の災害を想定した訓練の実施と、災害時の役割分担等、さらなる地域との協力体制を作り期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊重を基に対応しているが業務が多忙な時等、言葉がけが雑になっている時もある。職員同士で対応について指摘されたり等があり、互いの対応の仕方について見直した。	利用者個々の意見・尊厳を尊重し、敬意ある対応を心がけている。職員会議や研修等の場で共有し、実践に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お手伝い時など共に活動をしている最中や個人的に要望を伺い、自己決定出来る方向へ働きかけるも要望が多くなることもある為、適度に要望が叶えられるよう話している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時々の方針により職員側の都合を優先する時もなきにしもあらずで、このような時は入居者様にご説明を行い、後々要望が果たせられるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの色や普段からの様子から洋服着用の促しや言葉に表せない方はその方に合わせた洋服のコーディネート的な計らいをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしのヒゲ取りやお膳拭き、茶碗洗い、テーブル拭き等、各自出来ることを交代で行い残存能力を活かしている。	利用者の好みや希望を聞き取り、献立に反映している。旬の食材を使った季節感のあるメニュー、外食なども取り入れ、変化を付けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	盛り付けの量や刻み食、水分量を把握し、摂取しやすいよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後や就寝時、義歯洗浄と口腔ケアを促し介助を行いながら口腔内衛生保持を保てるようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄や失禁量を把握しながら適したパットの使用やトイレ誘導を行い、自力と排泄バランスが図れるようにしている	利用者のサインを見極め、タイミングよくトイレへの誘導を行っている。日中は布パンツを使用、トイレでの排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘時等、腹部マッサージや牛乳飲用を勧めたりしながら排泄の働きかけを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の行事等より入浴日の変更にならざるをえなくなる時があるが、その都度、ご説明をし、入浴をして頂ける様にしている。	週3回を目標に、体調や状況に応じた弾力的な支援を行っている。利用者の希望を取り入れ、快適で楽しい入浴となるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各入居者様の生活ペースから不穏時に至った経緯についての見当や休息ペース等、把握し、その都度に合わせた対応支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の品名と効能について、おんど版に記載し把握し心身の様子を診ながら担当医や看護師と相談をしながら対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から馴染の人の繋がりが継続でき時々会う機会を作ったり又、得意な事を促し気分転換と楽しいと感じていただける様、配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支	月に一度の同期会出席への送迎や以前から付き合いのある地域の方々とお食事会参加について、ご家族様と話し合い協力していただきながら取り組んでいる。	天気の良い日に散歩に出かけたり、買い物のついでに外食を楽しむなど、気分転換を行っている。外出行事や家族にも協力をお願いし、個別の外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様、ご家族様と相談をし、ご本人様に所持金を持っていただき、ご本人様もご自身で管理している、所持している気持ちを持っていただき以前と変わりのない状況作りをしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	以前お付き合いのあった方やご家族様に電話をし、話していただき馴染の関係が継続される様、ご家族様と話していただくことにより安心感と絆が深められる様、配慮している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物を置いたり、季節感(入居者様と一緒に作成をした物や知識(地図)等の掲示物を貼り、色彩や思い出して頂く回想法を取り入れながら、居心地が良いと感じていただける様、取り組んでいる。	リビングは食卓テーブルやソファなどが配置され、好きな場所でくつろげるようになっている。壁面に利用者と共同で作った季節の飾りなどが飾られ、温かい雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	所々に椅子を置き、1人で休めるスペースと仲の良い者同士で話せるよう席の配置をし、居心地よく過ごせられるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた物やご本人様が自ら掲示したい物を一緒に貼り好みの生活空間作りをしている。	居室には昔から使い慣れた品々を持ち込み、安心して暮らせるようにしている。利用者の価値観を大切に、生活を楽しめるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所の案内や注意書きを分かるように記し、安全を意識していただける様又、出来ない所は、お手伝いや、わかるよう何度も説明をし、自己なりの行動がなされる様、努めている。		